

JFA U-13 リーグ 2021 東海 実施要項

- 1 目的 (一社)東海サッカー協会は、日本サッカー界の将来を担う 3 種年代(U-13)の選手たちのより一層のサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図ることを目的とする。さらにレベルが拮抗したリーグ戦をM-T-Mメソッドに基づき、長期間を通して行う。
- 2 主催 (一社)東海サッカー協会・(一社)東海サッカー協会 3 種委員会
- 3 主管 東海地域リーグ運営委員会
- 4 後援 ミカサ
- 5 協力 愛知・岐阜県・静岡・三重 3 種委員会
- 6 日程 2021 年 6 月 ～ 2021 年 10 月 (前期)
2021 年 10 月 ～ 2021 年 12 月 (後期)
- 7 会場 東海地域各会場
- 8 参加資格 (1) (公財) 日本サッカー協会に第 3 種加盟登録を完了しているチームとする。
(2) 2007 年 4 月 2 日以降に生まれた選手であること。
*小 6 「クラブ申請」 していれば出場できる
- 9 参加チーム数
- | 愛知 | 岐阜 | 三重 | 静岡 | 計 |
|----|----|----|----|---|
| 4 | 1 | 1 | 3 | 9 |
- 10 競技方法 (1) 前期・・・9 チーム (ホーム or アウェイ/8 試合)
後期・・・9 チーム (ホーム or アウェイ/8 試合)
(2) 勝ち 3 点、引き分け 1 点、負け 0 点の勝ち点により順位を決定する。
なお、勝ち点が同一の場合は以下の項目に従い順位を決定する。
① 全試合のゴール・ディファレンス (総得点－総失点)
② 全試合の総得点
③ 当該チーム同士の対戦成績 (勝敗)
④ ①～③の全項目について同一の場合は、抽選により決定する。
(3) 試合時間：60 分 (前・後半 30 分)
(4) ハーフタイムのインターバル：原則として 10 分 (前半終了から開始まで)
(5) 延長戦は実施しない。
- 11 競技規則 (1) (公財) 日本サッカー協会「サッカー競技規則 2020/2021」による。
(2) 各試合の選手は最大 18 名とし、試合ごとにエントリーできる。
(3) ①交代に関しては、選手 18 名から最大 7 名の交代が認められる。(再交代はない)
②後半の交代回数を 3 回とする。(詳細については、18 その他(3)参照)
(4) 退場を命じられた選手は次の 1 試合に出場できず、それ以降の処置については、本大会規律・フェアプレー委員会において決定する。
(5) 期間中に警告を 3 回受けた選手は、次の 1 試合に出場できない。
(6) (4) 及び (5) の行為を繰り返した選手は、最低 2 試合の出場停止とする。
(7) 試合開始 30 分前までに、メンバー表と選手証を本部へ提出する。
(8) ベンチ入りできる人員は最大 12 名 (役員 5 名、選手 7 名) とする。
(9) アディショナルタイムの表示を実施する。

- (10) 試合球は各チームへ配布されたボールを持ち寄る。
- 12 ユニフォーム (1) ユニフォーム (シャツ・ショーツ・ソックス) については、正の他に副として、正と色彩が異なり判別しやすいユニフォームを各試合に必ず携行すること。また、チームのユニフォーム (ゴールキーパーのユニフォームを含む) のうちシャツの色彩は、審判員が通常着用する黒色と明確に判別し得るものでなければならない。
 (2) シャツの前面・背面に各試合で登録した選手番号を付けること。ショーツの選手番号については付けることが望ましい。番号は1~99番とする。
 (3) GKが控えを含め退場等の理由により試合続行不可能となった場合のFPによるGK出場の折の背番号については、GKのユニフォームを着用することによる不一致が発生しても良いこととする。
 (4) キャプテンマークは着けるほうが望ましい。
- 13 昇格・降格 (1) 東海地域リーグの7・8・9位チーム(3チーム)は降格。
 (2) 各県リーグ1部の1位チームによるプレーオフの勝者が昇格。(ただし、東海地域リーグの参加意思をもつこと)
- 14 表彰 優勝チーム以下第3位チームまで表彰する。
- 15 諸経費 60,000円 (※チーム数の増加に伴って、前年度より10,000増額)
 交通費については参加チームの負担とする。
- 16 傷害補償 大会中の負傷など事故があった場合は、応急処置のみ行います。参加チームは必ず傷害保険に加入すること。
- 17 運営組織 (1) 参加チームの中から運営本部を設置し、東海地域リーグ会場・審判など運営全般を統括する。
 (2) 本大会において、規律・フェアプレー委員会を組織し、委員長は東海3種委員長が務める。委員の人選については委員長に一任する。
- 18 その他 (1) 2017年度より、前期リーグにおいてはピッチサイズを縮小し、ゴールエリアのライン上にゴールを置くこととし、縦の長さの目安を90~94mとする。タッチラインからタッチラインの横幅については、目安を60mとする。(そのときには、ラインの代わりにフラットマーカーやカラーマーカー等で示すことも可とする。)
 (2) ①2チーム以上参加しているチームは、エントリー時に11名のブロック選手を指定すること。ブロック指定された選手については、下位リーグへの出場は認めない。ブロック外選手については、上位リーグ、下位リーグのいずれのリーグにも出場できる。
 メンバーの変更・追加及びブロック選手の変更があった場合は、各県の委員長にメンバー表の提出を行う。
 メンバーの変更・追加及びブロック選手の変更は以下の3つの期間とする。
8月30日(月)~9月3日(金) 前期5節と6節の間
10月11日(月)~15日(金) 前後期の間
11月8日(月)~12日(金) 後期5節と6節の間
(ブロック選手の下位リーグへの出場など違反があった場合はその選手と監督を1か月の出場停止となります。)
 ②GKについても①と同様とするが、緊急事態(GKの日本代表活動への参加や複数のGKの故障の場合など)により、セカンドチーム以下のGKが各県第3種委員長の承認を得て、東海地域リーグへの出場が可能となり、登録変更期間以外であっても、セカンドチームの試合に戻ることを可能とすることもある。
 ③脳震盪で選手が負傷した場合は原則として以下のように対応する。

- ・ 1試合において、各チーム最大1人の「脳振盪による交代」を使うことができる。
- ・ 「脳振盪による交代」は、その前に何人の交代が行われているにかかわらず、行うことができる。
- ・ 氏名を届け出る交代要員の数が、交代の最大数と同じである競技会においては、既に交代で退いた競技者であっても「脳振盪による交代」に基づき、交代で競技者になることができる。

進め方について

- ・ 交代の進め方は、第3条・競技者に基づき行われる(下記に示される場合を除く)。
- ・ 「脳振盪による交代」は、次により行うことができる。
 - 脳振盪を受傷した、または、その疑いが生じた直後に
 - 最初にフィールド上での3分間の診断を行った後、またはフィールド外での診断後に
 - (競技者が、その時より前に診断を受け、競技のフィールドに戻った場合を含め)それ
 - 以外で脳振盪を受傷した、または疑われるときはいつでも
- ・ チームが「脳振盪による交代」を行うこととした場合、できることならば、異なる色の交代カード/様式を用いて主審/第4の審判員に知らせる。
- ・ 受傷した競技者は、その後、どのような場合でも試合に出場することができない(ペナルティーマークからのキックを含む)。また、できる限り、更衣室や医療施設に関係者に付き添われて行かなければならない。

交代の回数について

- ・ 「脳震盪による交代」は、「通常の」交代の回数の制限とは別に取り扱われる。
- ・ しかしながら、チームが「脳振盪による交代」を「通常の」交代に合わせて行った場合、1回の「通常の」交代としてカウントされる。

- (2) 実施要項に記載されていない事項については、(一社)東海サッカー協会3種委員長会において協議し決定する。
- (3) 後半の選手交代を3回までにする。
前半、ハーフタイムでの選手交代は、後半の交代回数に含まれない。
※後半のウォータブレイク、クーリングブレイクでの交代は後半の交代回数に含まれる。
※GKが負傷した場合や脳震盪での交代は、この回数には含まれない。
- (4) 感染症対策について
最新の「公式戦における新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対策」等を順守して、選手・保護者・指導者・大会運営者が協力して感染症対策に努める。
その上でできる限り試合環境の確保を目指す。